

『白い月の丘で』

濱野 京子／著 角川書店（2011年）

ハジュンは強国アインズに滅ぼされたトール国の王子。シーハン公国へとひそかに脱出し、過去を捨てて成長したが、十年ぶりに故国へと帰ってくる。そこで目にしたのは、アインズに虐げられ、音楽まで禁じられたトールの姿だった。幼なじみのマーリィの家で世話になりながら、トールについて考える。過去を捨てたからといって胸の痛みが消えることはない。故国を離れたからこそ見えてくるものがある。



『ふたつの月の物語』

富安 陽子／著 講談社（2012年）

養護施設で暮らす^{みづき}美月と、拾われたお寺で暮らす^{あかり}月明。二人の少女は奇妙な条件によって、津田という富豪の別荘に、里子候補として招かれた。出会ってすぐに共通する何かを感じとった二人は、多くを語らない津田の思惑をさぐるため、屋敷を調べ始める。わかったのは、この別荘は十四年前にダムの底に沈んだ村のすぐそばに建っていること、その村で特別な神事が行われていたこと。そして満月の夜、二人の出生の秘密が明らかになる。

『月の名前』

高橋 順子／文 佐藤 秀明／写真

デコ（2012年）

この本には、神秘的で美しい月のいろいろな呼び方や月にまつわるエッセー、神話、短歌、俳句等が美しい写真とともに紹介されています。

「月には何がいる？」という表題のエッセーでは、各国で月に住んでいると言われている人や動物の話が書かれています。

この本を読んで、「月にはうさぎが住んでいる？」そんなことを思い浮かべながら、今宵の月を眺めてみませんか。



『月へ アポロ 11 号のはるかなる旅』

ブライアン・フロッカ／作・絵

日暮 雅通／訳 偕成社（2012年）

人類で初めて月へ行った宇宙船をアポロ 11号といいます。アポロ 11号は1969年7月16日、3人の宇宙飛行士を乗せて、フロリダ州ケープケネディから発射されました。この本では美しい絵で、アポロ 11号がどうやって月までたどり着き、月面着陸を成し遂げたのかが描かれています。また3人の宇宙飛行士が宇宙船の中で、食事やトイレをどうしていたのかといった、疑問にも答えてくれます。

『星の海を君と泳ごう』

柴田 よしき／著 光文社（2006年）

^{ルナ}月生まれのララは出版社に就職する夢を持っていました。そのためには銀河総合大学を卒業しなければいけません。しかし、ララは非常に高額な学費に苦勞していました。そんな時、親友からアルバイトを紹介されます。そのアルバイトはキャンパスで学生にインタビューするというものでした。ところが、アルバイトには裏があって…。

宇宙を舞台にしたララと仲間の冒険ファンタジーです。続編に『時の鐘を君と鳴らそう』『宙の詩を君と謳おう』があります。